

大学生が考える望ましい学級とは？

—これからの学級経営にむけた教員養成の課題—

長谷川 祐介・白松 賢

University Students' Thoughts on Desirable Classrooms :
Issues in Teacher Training for Future Classroom Management

HASEGAWA, Yusuke and SHIRAMATSU, Satoshi

大分大学教育学部研究紀要 第44巻第2号

2023年3月 別刷

Reprinted From

RESEARCH BULLETIN OF THE

FACULTY OF EDUCATION

OITA UNIVERSITY

Vol. 44, No. 2, March 2023

OITA, JAPAN

大学生が考える望ましい学級とは？

—これからの学級経営にむけた教員養成の課題—

長谷川 祐介*・白松 賢**

【要 旨】 本稿は教職課程を履修している大学生を対象にした量的調査データを用いて、大学生の学級経営観、具体的には大学生が考える望ましい学級像を記述し、学生生活や教職の志向性との関連について分析を行った。その結果、多くの大学生は旧来型の生活共同体的な学級を望ましいと考える一方、これから求められる包摂を重視する学級を望ましいと考える大学生は少なかった。また教員養成において学級経営における包摂というテーマを十分取り扱われておらず、教員養成における学習経験が旧来型の学級像を強化させている可能性が示唆された。これからの学級経営にむけた大学の教員養成の課題は、大学においてこれまでの学級像を省察する機会を増加することと同時に、包摂を重視する学級経営に関する学習を充実させることである。

【キーワード】 学級経営 教員養成 生活共同体 包摂

I 問題の所在

学校現場の教師にとって学級経営は最も重要な仕事であると同時に、最も不確実な仕事でもある。そもそも教職は Lortie (訳書 2021) が指摘するとおり、不確実性という特徴を有している。とりわけ学級経営は教科を中心とした学習指導に加え、生徒指導や進路指導など多様な内容を包含しており、さらに多様な子どもたちに対してきめ細やかな指導支援を教師に求めることとなる。加えて、学級経営は取り扱う内容が多様であるがゆえに様々な課題に対し柔軟に対応しなければならないことから、指導支援の方法等の定型化は非常に難しい。このことから学級経営は教職の中でも成否が分かりにくい最も困難な仕事の1つとなっている。

学級経営の困難さは、学校現場における様々な学級経営論の流布につながっている。学級経営論の代表例として、近年では菊池省三氏による学級経営論があげられるだろう。菊池ら (2018) は、小学校現場において勤務経験のある菊池省三氏の学級経営の経験や、その経験に基づく菊池氏が学級づくりにおいて大切にしたい8つの方法 (たとえばほめ言葉のシャワー) について解説がなされている。

ところが学校現場で流布している学級経営論には課題がある。赤坂 (2019) によれば、学級

令和4年10月31日受理

*はせがわ・ゆうすけ 大分大学教育学部発達科学教育講座 (教育学)

**しらまつ・さとし 愛媛大学大学院教育学研究科

経営は理論の体系化がなされておらず、他者の成功体験や民間の教育運動に頼らざるを得ない状況にあるため「学級経営論は個々の教師の文化論になってしまい、学級状況に差が生まれやすい」（赤坂 2019, p.3）。たとえば菊池ら（2018）が推奨する「ほめ言葉のシャワー」「価値語の指導」など 8 つの指導はいずれも菊池省三氏の実践経験に基づいたものであり、菊池省三氏やその仲間である菊池道場と呼ばれる教師集団固有の文化論¹⁾という指摘からは免れないのではないだろうか。こうした学級経営論の内容検討は重要な研究課題であるが、それとは別に、赤坂（2019）や阿部（2019）などが論じているように学術的な学級経営研究を蓄積することが学級経営の充実を図る上でも重要である²⁾。とりわけ学級経営に関わる人々を対象にした調査研究は、学級経営研究の基盤を構築する上で不可欠である³⁾。

そこで本稿は学級経営に関する学術研究を進展させるため、教職課程を履修している大学生を対象にした調査データを用いて大学生の学級経営観を記述する。今回、大学生を対象にする理由は、学級経営研究においても教師のキャリアに着目する必要があると考えたからである。教師のキャリア形成に関係するライフヒストリー研究（たとえば Goodson & Sikes 訳書 2006）などを参照したとき、教師の専門的実践を理解するには、特定の時期の学校等の環境等だけではなく、教師のライフヒストリーを理解することが重要となる。そうしたとき、実際の学校現場で実際に学級担任をしている教師ではなく、キャリア形成のスタート地点にある教員養成時期にある大学生に着目した記述分析は、学級経営研究においても重要なものとなる。大学生の学級経営観に着目した先行研究として寺町（2020）があげられる。ただし寺町（2020）はインタビュー調査にもとづいたものであり、量的調査を用いた大学生の学級経営観に関わる先行研究は必ずしも多くない。

学級経営観のうち今回は、大学生が考える望ましい学級像に着目する。教職を目指す大学生は様々な「教育言説」や「観察の徒弟制」（Lortie 訳書 2021）により、学級担任になる前から望ましい学級のイメージを形成している。大学卒業後、学校現場で実際に学級担任をする際、大学生の時までに抱いていた望ましい学級像は学級経営の現場に持ち込まれることが予想される。そうしたとき、望ましい学級像は実際の学級のあり方に何かしらの影響を及ぼす可能性があり、学校現場における学級経営においても無関心ではいられない。このことより学級経営研究において、大学生が考える望ましい学級像は重要な研究対象となる。

以下、分析に用いる調査データについて説明を行った上で、大学生が考える望ましい学級像を記述し、それらと学生生活、教職の志向性の関連について検討する。分析結果を踏まえ、これからの学級経営にむけた教員養成の課題を考察する。

II 分析に用いる調査データ

本稿の分析で用いた調査データは、学級経営意識調査である。この調査は、2021年6月から7月にかけて実施した Google フォームを用いたウェブ調査である。調査対象者は教職課程を履修している大学生である。

調査実施の具体的な手続きは次の通りである。4年制大学（国立2校、私立4校）の調査協力者（教職課程の授業担当者）を通じて、各大学の教職課程を履修している大学生に回答を依頼した。回答者は自身が使用するパソコンやスマートフォン等を用いて、メール等に掲載された調査回答用の URL もしくは QR コードから自ら回答を行った。なおウェブ調査のフォーマ

ットのはじめに調査趣旨や倫理的配慮を記載し、回答に同意する場合、調査対象者は調査項目の一番はじめに設けた同意項目にチェックを行い、その後、調査対象者は質問に回答する設定とした。調査実施前の2021年4月に大分大学教育学部研究倫理審査委員会に倫理審査申請を行い、調査倫理上問題がないことの承認を得た。

調査終了後、データクリーニングを行った結果、有効回答数は777名となった。そのうち、今回は学級像に関する20項目全てに回答した745名のデータを用いて分析することとした。ただし変数によって無回答等による欠損値があるため、以下示す集計結果や分析結果では、合計が745名を下回る場合がある。

分析対象者の概要は表1のとおりである。このうち国立大学2校は教員養成系の学部が設置されている地方所在の大学（地方国立A大学、地方国立B大学）で、A大学とB大学の割合の和より分析対象者の約6割が地方所在の国立大学の学生となった。なお私立大学4校のうち、2つは都市部に所在する大学（都市部私立C大学、都市部私立D大学）、のこり2つは地方に所在する大学である（地方私立E大学、地方私立F大学）である。学年は学部1年生が44.6%と分析対象者の半数近くを占め、続いて学部2年生が28.0%、学部3年生は25.5%であった。表1には示していないが、性別について分析対象者の52.8%（392名）が女性と回答していた。

表1 分析対象者の概要（在籍大学と学年）

| | 所属大学 | | 学年 | | |
|----------|------|--------|-------|-----|--------|
| | N | % | N | % | |
| 地方国立A大学 | 145 | 19.5% | 学部1年生 | 330 | 44.6% |
| 地方国立B大学 | 384 | 51.5% | 学部2年生 | 207 | 28.0% |
| 都市部私立C大学 | 108 | 14.5% | 学部3年生 | 189 | 25.5% |
| 都市部私立D大学 | 32 | 4.3% | 学部4年生 | 14 | 1.9% |
| 地方私立E大学 | 25 | 3.4% | 合計 | 740 | 100.0% |
| 地方私立F大学 | 51 | 6.8% | | | |
| 合計 | 745 | 100.0% | | | |

Ⅲ 分析結果

1 大学生が考える望ましい学級像

教職課程を履修している大学生は、どのような学級を望ましいと考えているのであろうか。本稿では、学級経営意識調査において設定した望ましい学級像に関する20項目を用いて検討を行った。調査では「あなたが望ましいといえる学級（ホームルーム）の様子として、次の項目はどの程度あてはまりますか？」という問いに対し、それぞれの項目について「とてもあてはまる」から「全くあてはまらない」の5件法で回答を求めた。分析に際し、「とてもあてはまる」を5、「ややあてはまる」を4、「どちらともいえない」を3、「あまりあてはまらない」を2、「まったくあてはまらない」を1と配点した。

望ましい学級像に関する20項目を用いて、因子分析（最尤法、プロマックス回転）を行い、解釈可能性を踏まえ、最終的に3つの因子を抽出した。分析結果は表2のとおりである。

第1因子は「生活共同体的学級」と命名した。「チャレンジ」「失敗の受容」「協力」「楽しさ」

「感動」など以前から希求されてきた学級における子どものイメージに関わる項目によって構成されていた。以前から支配的な言説である「学級＝生活共同体」（高橋 1997）を望ましい学級像と捉える因子として解釈される。

第2因子は「包摂重視学級」と命名した。「自分の特性に応じて立ち歩きや、教室の外に出ることが許される学級」などの項目によって構成された因子である。さまざまな子どもたちを包摂することを重視する学級像に関する因子として解釈される。

第3因子は「トラブルゼロ学級」と命名した。第3因子は、構成する項目を見てみると「教師-子ども」「子ども-子ども」関係において、トラブルがない学級像に関する因子として解釈できる。

続いて因子間相関をみてみると、「生活共同体的学級」と「トラブルゼロ学級」の相関係数は正の値で、その絶対値も0.34と、他の相関係数と比べて大きいことがわかる。すなわち旧来型の生活共同体的な学級像を肯定する場合、学級におけるトラブルゼロを肯定する傾向にあるといえるだろう。

表2 望ましい学級像の基礎統計量と因子分析結果（因子パターン）

| 項目内容 | 基礎統計量 | | 因子負荷量 | | |
|-----------------------------------|-------|------|-------------|-------------|-------------|
| | 平均値 | SD | I | II | III |
| I 生活共同体的学級 | | | | | |
| ⑥子どもがいろいろなことにチャレンジする学級 | 4.72 | 0.68 | 0.88 | 0.03 | -0.15 |
| ②子どもが安心して失敗できる学級 | 4.74 | 0.68 | 0.88 | 0.04 | -0.23 |
| ⑩子ども同士、力をあわせていろいろな活動に取り組む学級 | 4.66 | 0.70 | 0.86 | -0.01 | -0.03 |
| ①楽しい学級 | 4.67 | 0.70 | 0.83 | -0.07 | -0.08 |
| ⑤子どもが素直に自分の意見や考えを言い合える学級 | 4.66 | 0.71 | 0.82 | -0.01 | -0.07 |
| ④子ども同士だれとでも協力しあって活動する学級 | 4.57 | 0.79 | 0.74 | -0.06 | 0.13 |
| ⑦みんなで感動する経験をすることが出来る学級 | 4.50 | 0.84 | 0.71 | -0.10 | 0.14 |
| ⑯どのような子どもでも活躍することが出来る学級 | 4.49 | 0.81 | 0.71 | -0.04 | 0.12 |
| ⑫ルールやきまりをきちんと守る学級 | 4.42 | 0.79 | 0.65 | -0.18 | 0.21 |
| ⑪どのような子どもでも、任された仕事や役割のある学級 | 4.43 | 0.83 | 0.64 | 0.07 | 0.09 |
| ③子ども同士、言葉で注意し合う学級 | 4.28 | 0.84 | 0.62 | 0.17 | -0.06 |
| ⑨子どもたちが自分たちで決まりやルールをつくる事が出来る学級 | 4.04 | 0.93 | 0.43 | 0.35 | 0.02 |
| II 包摂重視学級 | | | | | |
| ⑬自分の特性に応じて立ち歩きや、教室の外に出ることが許される学級 | 2.89 | 1.22 | -0.06 | 0.62 | 0.04 |
| ⑲怒ったり、感情を爆発させたりする子がいる学級 | 2.66 | 1.00 | -0.06 | 0.58 | -0.07 |
| ⑦学級の決まりやルールを破っても、温かく許される学級 | 2.85 | 1.23 | -0.01 | 0.56 | 0.19 |
| ⑬先生の指示に反抗する子どもがいる学級 | 2.74 | 0.96 | -0.01 | 0.56 | -0.16 |
| ⑧学級で何か困ったことがあると、子どもだけで話しあって解決する学級 | 3.50 | 1.07 | 0.17 | 0.42 | 0.21 |
| III トラブルゼロ学級 | | | | | |
| ⑭先生のことを嫌いと思う子どもが全くいない学級 | 2.74 | 1.00 | -0.12 | 0.00 | 0.73 |
| ⑫子ども同士のトラブルが全くない学級 | 2.83 | 1.11 | -0.06 | 0.02 | 0.65 |
| ⑮子どもたち全員、お互いのことを友だちだと思っている学級 | 3.52 | 1.14 | 0.21 | -0.01 | 0.61 |
| 因子間相関 | | | I | II | III |
| | | | 1.00 | 0.19 | 0.34 |
| | | | II | 1.00 | 0.22 |
| | | | III | | 1.00 |

また各因子を構成する項目（最大値5、最小値1）の平均値をみてみると、「生活共同体的学級」を構成する項目の平均値の値はおおむね4以上と大きな値であった。すなわちほとんどの大学生は、以前から支配的な言説である「学級＝生活共同体」を望ましい学級と捉えていることがうかがえる。他方、「包摂重視学級」「トラブルゼロ学級」を構成する項目の平均値は、おおよそ2.5から3.5の間の値であった。「生活共同体的学級」に比べると、「包摂重視学級」「ト

「ラブルゼロ学級」を望ましい学級と捉える大学生は少ないといえる。

2 望ましい学級像と学生生活

次に望ましい学級像と学生生活の関連について検討を行った。まず表 2 における因子分析の結果より算出された因子得点（回帰法により算出）を用いて、在籍大学を独立変数、望ましい学級像を従属変数とした一元配置分散分析を行った（表 3）。分析の結果、「生活共同体的学級」のみ大学間で平均値に有意な差があった。ただし効果量（ η^2 ）の値は 0.02 と小さく、在籍大学によって望ましい学級像に大きな違いがあるとは言いがたい結果であった。

表 3 望ましい学級像を従属変数とした一元配置分散分析（独立変数：在籍大学）

| | 大学 | N | 平均値 | SD | 有意差 | 効果量 (η^2) |
|-----------|----------|-----|-------|------|-----|---------------------|
| 生活共同体的学級 | 地方国立A大学 | 145 | 0.00 | 1.14 | ** | 0.02 |
| | 地方国立B大学 | 384 | 0.08 | 0.81 | | |
| | 都市部私立C大学 | 108 | 0.09 | 0.77 | | |
| | 都市部私立D大学 | 32 | -0.29 | 1.21 | | |
| | 地方私立E大学 | 25 | -0.35 | 1.31 | | |
| | 地方私立F大学 | 51 | -0.41 | 1.41 | | |
| 包摂重視学級像 | 地方国立A大学 | 145 | 0.09 | 0.97 | ns | 0.00 |
| | 地方国立B大学 | 384 | 0.00 | 0.78 | | |
| | 都市部私立C大学 | 108 | -0.06 | 0.94 | | |
| | 都市部私立D大学 | 32 | 0.01 | 0.84 | | |
| | 地方私立E大学 | 25 | -0.11 | 0.84 | | |
| | 地方私立F大学 | 51 | -0.09 | 0.95 | | |
| トラブルゼロ学級像 | 地方国立A大学 | 145 | -0.03 | 0.84 | ns | 0.01 |
| | 地方国立B大学 | 384 | 0.01 | 0.85 | | |
| | 都市部私立C大学 | 108 | 0.08 | 0.98 | | |
| | 都市部私立D大学 | 32 | -0.01 | 0.93 | | |
| | 地方私立E大学 | 25 | -0.38 | 0.91 | | |
| | 地方私立F大学 | 51 | 0.01 | 0.87 | | |

*** $p < 0.001$, ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, ns $p \geq 0.05$.

在籍大学による違いはあまりなかったが、大学による授業への取り組みや期待などによって違いがあるだろうか。次に大学での授業を独立変数⁴⁾、望ましい学級像（因子得点）を従属変数とした一元配置分散分析を行った（表 4）。分析結果をみると、大学の授業を楽しみにしている学生は、「生活共同体的学級」に対して肯定的であった。このことは「楽しみにしている授業がある」という項目において、「あてはまる」と回答した学生は「どちらともいえない」「あてはまらない」と回答した学生と比べて「生活共同体的学級」の因子得点の平均値が有意に高かった（ $p < 0.001$ ）ことか見える。ただし効果量（ η^2 ）は 0.02 とそれほど高い値を示してはなかったことから、授業を楽しみにしていることによる「生活共同体的学級」に対する意識の違いはあるものの、その違いはあまり大きいものではないといえるだろう。

ところが大学の授業での知識（専門、幅広い）獲得に対する項目（「大学の授業では専門的知識を得られると思う」「大学の授業では幅広い知識を得られると思う」）については有意差があった（いずれも $p < 0.001$ ）ことに加え、効果量（ η^2 ）も約 0.10 と中程度の値であった。大学への授業への期待をもつこと、すなわち大学文化に適応している、といえるような学生は、望ましい学級像として生活共同体的な学級像を肯定する傾向にあるといえるだろう。

表 4 望ましい学級像を従属変数とした一元配置分散分析（独立変数：大学での授業）

| 楽しみにしている授業がある | | N | 平均値 | SD | 有意差 | 効果量 (η ²) |
|----------------------|-----------|-----|-------|------|-----|-----------------------|
| 生活共同体的学級 | あてはまる | 478 | 0.11 | 0.77 | *** | 0.02 |
| | どちらともいえない | 137 | -0.17 | 1.09 | | |
| | あてはまらない | 128 | -0.24 | 1.39 | | |
| 包摂重視学級像 | あてはまる | 478 | 0.02 | 0.85 | ns | 0.00 |
| | どちらともいえない | 137 | 0.01 | 0.87 | | |
| | あてはまらない | 128 | -0.08 | 0.88 | | |
| トラブルゼロ学級像 | あてはまる | 478 | 0.03 | 0.88 | ns | 0.01 |
| | どちらともいえない | 137 | 0.02 | 0.75 | | |
| | あてはまらない | 128 | -0.15 | 0.99 | | |
| 授業内容について先生に質問することがある | | N | 平均値 | SD | 有意差 | 効果量 (η ²) |
| 生活共同体的学級 | あてはまる | 293 | 0.07 | 0.77 | ns | 0.00 |
| | どちらともいえない | 155 | -0.11 | 1.06 | | |
| | あてはまらない | 297 | -0.01 | 1.10 | | |
| 包摂重視学級像 | あてはまる | 293 | 0.08 | 0.87 | ns | 0.01 |
| | どちらともいえない | 155 | -0.02 | 0.86 | | |
| | あてはまらない | 297 | -0.07 | 0.84 | | |
| トラブルゼロ学級像 | あてはまる | 293 | -0.02 | 0.93 | ns | 0.00 |
| | どちらともいえない | 155 | 0.04 | 0.77 | | |
| | あてはまらない | 297 | 0.00 | 0.88 | | |
| 授業を苦痛に感じる人が多い | | N | 平均値 | SD | 有意差 | 効果量 (η ²) |
| 生活共同体的学級 | あてはまる | 292 | 0.07 | 0.77 | * | 0.01 |
| | どちらともいえない | 264 | -0.12 | 1.16 | | |
| | あてはまらない | 188 | 0.07 | 0.95 | | |
| 包摂重視学級像 | あてはまる | 292 | 0.09 | 0.85 | * | 0.01 |
| | どちらともいえない | 264 | -0.02 | 0.83 | | |
| | あてはまらない | 188 | -0.12 | 0.89 | | |
| トラブルゼロ学級像 | あてはまる | 292 | 0.03 | 0.92 | ns | 0.00 |
| | どちらともいえない | 264 | -0.02 | 0.79 | | |
| | あてはまらない | 188 | -0.02 | 0.92 | | |
| 大学の授業では専門的知識を得られると思う | | N | 平均値 | SD | 有意差 | 効果量 (η ²) |
| 生活共同体的学級 | あてはまる | 632 | 0.12 | 0.73 | *** | 0.11 |
| | どちらともいえない | 77 | -0.42 | 1.28 | | |
| | あてはまらない | 35 | -1.22 | 2.26 | | |
| 包摂重視学級像 | あてはまる | 632 | 0.01 | 0.85 | ns | 0.00 |
| | どちらともいえない | 77 | 0.04 | 0.77 | | |
| | あてはまらない | 35 | -0.24 | 1.07 | | |
| トラブルゼロ学級像 | あてはまる | 632 | 0.03 | 0.87 | ns | 0.01 |
| | どちらともいえない | 77 | -0.11 | 0.86 | | |
| | あてはまらない | 35 | -0.30 | 0.93 | | |
| 大学の授業では幅広い知識を得られると思う | | N | 平均値 | SD | 有意差 | 効果量 (η ²) |
| 生活共同体的学級 | あてはまる | 594 | 0.10 | 0.77 | *** | 0.10 |
| | どちらともいえない | 104 | -0.22 | 1.04 | | |
| | あてはまらない | 44 | -0.89 | 2.13 | | |
| 包摂重視学級像 | あてはまる | 594 | 0.01 | 0.87 | ns | 0.01 |
| | どちらともいえない | 104 | -0.03 | 0.79 | | |
| | あてはまらない | 44 | -0.06 | 0.93 | | |
| トラブルゼロ学級像 | あてはまる | 594 | 0.04 | 0.85 | * | 0.03 |
| | どちらともいえない | 104 | -0.09 | 0.91 | | |
| | あてはまらない | 44 | -0.31 | 1.01 | | |

*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, ns p≥0.05.

